

[江別市] 施策達成度報告書

政策 02 明日につながる産業の振興

施策 01 都市型農業の推進

主管課：農業振興課

施策の目的

担い手を育成確保し新たな技術や経営方法を積極的に取り入れるなど、従来の農業生産のあり方を見直し改善することによって、農業産出額の維持・向上を図ります。

対象(誰を対象とした指標か)

意図(対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

市民、農業者	生産額が向上する。
--------	-----------

施策の目的をあらわす指標の動き(成果指標)

施策の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	後期 目標値
農業産出額	百万円	6,140	-	-	-	-	-	6,200
JA道央販売実績(参考)	百万円	3,887	-	3,849	4,157	4,521	4,448	↗

施策の達成状況(25年度)

成果指標として当初設定した「農業産出額」については、国の統計データの公表が行われないこととなったため、「JA道央販売実績」に指標を変更した経過がある。江別市の農業は、従来の稲作と酪農中心から、畑作・肉用牛・露地野菜や施設園芸など多様な営農形態へと変化しており、立地性など都市型農業の利点を活かす中で振興を図ってきた。近年は、小麦の作付が拡大し、「ハルユタカ」の初冬まき技術の確立と市内企業との連携による「江別小麦めん」が江別ブランドとなるまでに成長するなど、市内外からも「麦の里えべつ」として認知されるに至っており、また、小麦以外にも多様な農作物が作付され、特にブロッコリーやレタス、白菜などは道内でも主要な産地となるなどの成長を見せている。こうした状況の中、「都市型農業の推進」に向けて、基本事業を展開してきたところであり、成果指標は前年度の数値を若干下回ったものの、後期目標の達成が図られたと考えている。

施策事業コスト	21年度決算額	22年度決算額	23年度決算額	24年度決算額	25年度決算額
トータルコスト(千円)	476,770	616,068	514,100	352,867	401,822
事業費(千円)	339,846	491,541	392,105	229,416	281,496
人件費(千円)	136,924	124,527	121,995	123,451	120,326

基本事業

01 担い手の育成・確保

基本事業の目的

新規農業参入者や農業法人を補助・育成したり、情報化や高度技術化に対応する人材を確保することにより、世襲以外にも農業に取り組む人を確保し、継続できる農業経営にします。

対象(誰を対象とした指標か)

意図(対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

農業者、後継者及び新規参入者

- ・継続できる農業経営にする
- ・就農者の確保をする

基本事業の目的をあらわす指標の動き(成果指標)

※()は、各年度の人数

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	後期目標値
農家戸数	戸	550	502	483	473	449	433	550
新規就農者数 【初期値(H19) 前期4年間14人(累計)】	人(累計)	-	9	14 (5)	23 (9)	30 (7)	40 (10)	20
農業生産法人数	団体	34	41	44	45	44	48	40

基本事業の達成状況(25年度)

成果指標のうち農家戸数については、担い手の高齢化に伴う離農などによって減少傾向にあり、後期目標値を下回る結果となった。農家戸数の減少は全国的に課題となっているが、農家戸数の減少が遊休農地の拡大につながることはないよう、「人・農地プラン」を策定し地域の中心となる担い手へ農地の集積を図ることにより、一戸当たりの経営面積の拡大による経営の安定化や作業の効率化等を図ってきた。また、新たな担い手の確保としても、国の補助制度などを活用した新規就農者の拡大や法人化への誘導等に努めてきたところであり、いずれの指標も後期目標値を達成することができた。今後も各種制度等を活用する中で担い手の育成確保を図っていきたい。

施策事業コスト	21年度決算額	22年度決算額	23年度決算額	24年度決算額	25年度決算額
トータルコスト(千円)	1,269	1,167	1,086	5,632	6,578
事業費(千円)	439	361	283	3,227	4,624
人件費(千円)	830	806	803	2,405	1,954

基本事業の目的

農地の流動化による経営規模拡大や、花き・野菜など小規模な面積でも収益性のある集約型農業を推進するとともに、地力や圃場条件を整え生産性を向上し所得の安定を図ります。

対象(誰を対象とした指標か)

意図(対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

農業者	生産性を向上し、所得の安定を図る。
-----	-------------------

基本事業の目的をあらわす指標の動き(成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	後期 目標値
一戸当たり生産農業所得	千円	6,130	-	-	-	-	-	6,200
JA道央組合員一戸当たりの販売実績(参考)	千円	5,414	-	5,711	6,366	7,165	7,376	↗

基本事業の達成状況(25年度)

成果指標として当初設定した「一戸当たりの生産農業所得」については、国の統計データの公表が行われないこととなったため、「JA道央組合員一戸当たりの販売実績」に指標を変更した経過がある。平成25年度においても前年度実績を上回る結果となったが、これは農家戸数(組合員数)は減少しているものの、農地の集積による経営規模の拡大や都市型農業の特徴を活かした収益性の高い集約型農業を推進した結果であると考えられる。今後も貸付制度や各種補助制度など生産性向上に向けた支援を継続し、農業経営の安定を図っていきたい。

施策事業コスト	21年度決算額	22年度決算額	23年度決算額	24年度決算額	25年度決算額
トータルコスト(千円)	169,882	362,644	270,470	139,293	185,882
事業費(千円)	124,241	325,971	230,340	98,812	146,425
人件費(千円)	45,641	36,673	40,130	40,481	39,457

基本事業の目的

農業地域の道路を整備したり水洗化や景観保全を進めることによって、衛生面等で生活環境の向上を図り快適な生活が送れるようにします。

対象(誰を対象とした指標か)

意図(対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

農業地区住民	生活環境(衛生等)の向上を図り快適な生活できる。
--------	--------------------------

基本事業の目的をあらわす指標の動き(成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	後期 目標値
農業地区が衛生的で、快適な生活環境だと感じる地区住民の割合	%	83.9	85.7	-	89.7	85.1	81.1	↗

基本事業の達成状況(25年度)

成果指標である「農業地区が衛生的で、快適な生活環境だと感じる地区住民の割合」については、若干数値が低下する結果となった。これは農村地域の水洗化率は伸びているなど、衛生面も含めた生活環境は向上しているものの、農業用排水路などの農業生産基盤の老朽化といった課題があり、数値低下の要因の一つとなっているのではないかと考えている。現在も地元の保全会への支援などを通じ、農村地域のもつ多面的機能の維持・向上に努めているところである。今後も計画的な農業基盤整備の実施とあわせ、良好な農村環境の実現を図っていく必要がある。

施策事業コスト	21年度決算額	22年度決算額	23年度決算額	24年度決算額	25年度決算額
トータルコスト(千円)	132,172	128,345	125,449	122,815	118,392
事業費(千円)	106,032	99,732	102,977	101,572	97,686
人件費(千円)	26,140	28,613	22,472	21,243	20,706

基本事業の目的

江別産農畜産物のブランド化やイメージアップを図り、高品質で付加価値の高い商品にすることで新たな需要の拡大や市場での競争力を高めます。

対象(誰を対象とした指標か)

意図(対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

江別産農畜産物	市場価値が高く、ブランド化される。
---------	-------------------

基本事業の目的をあらわす指標の動き(成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	後期 目標値
市場で付加価値の高い農産物の作付面積	ha	1,090	1,250	1,242	1,118	1,041	993	1,100
市場で付加価値の高い畜産物の飼養頭数	頭	614	705	663	842	828	807	630

基本事業の達成状況(25年度)

成果指標の「市場で付加価値の高い農産物の作付面積」については、後期目標値を若干下回る結果となった。この指標はハルユタカやブロッコリー等の作付面積を指標としているが、輪作体系や気候等による影響もあり、若干の減少はあるものの江別小麦めんをはじめとした農商工連携による高付加価値化の取り組みの成果もあり一定の作付が維持されていると考えられる。また、「市場で付加価値の高い畜産物の飼養頭数」は、えぞ但馬牛の飼養頭数を指標としており、市場価格の動向等により年度間の増減はあるものの、ブランド化支援事業補助等の支援により、一定の飼養頭数の確保が図られ、後期目標を達成することができたと考えている。今後も6次産業化支援などを含め、生産者の主体的な取り組みを支援していきたい。

施策事業コスト	21年度決算額	22年度決算額	23年度決算額	24年度決算額	25年度決算額
トータルコスト(千円)	12,311	12,367	7,912	9,017	8,073
事業費(千円)	694	1,889	688	600	650
人件費(千円)	11,617	10,478	7,224	8,417	7,423

基本事業の目的

健康・安全志向などの消費者ニーズに対応し、有機・減農薬での生産や堆肥を使った地球にやさしい農業を行うことで、自然と共生した環境保全型農業を推進します。

対象(誰を対象とした指標か)

意図(対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

農業者	<ul style="list-style-type: none"> ・有機減農薬での生産拡大する。 ・堆肥などによる土づくりにより環境にやさしい土地をつくる。
-----	--

基本事業の目的をあらわす指標の動き(成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	後期 目標値
エコファーマー認定戸数	戸	19	143	152	271	274	274	50

基本事業の達成状況(25年度)

成果指標であるエコファーマーの認定戸数は、後期目標値を大きく上回ることができた。エコファーマーは、土づくりや減化学肥料、減農薬などに取り組む生産者を北海道知事が認定する制度であり、国の補助制度や北海道の貸付制度など具体的な支援措置を含めた制度の周知による誘導のほか、消費者の健康・安全志向を受けて農業者の取り組みの定着が図られつつあると考えている。今後も次代の農業者が環境を保全する取り組みを支援していく必要がある。

施策事業コスト	21年度決算額	22年度決算額	23年度決算額	24年度決算額	25年度決算額
トータルコスト(千円)	0	0	3,626	2,627	391
事業費(千円)	0	0	1,218	222	0
人件費(千円)	0	0	2,408	2,405	391

基本事業の目的

農業体験やイベント・産地直売所での消費者との交流を通じて、消費者に地元農産物について、より身近に感じてもらいます。

対象(誰を対象とした指標か)

意図(対象をどのような状態にしたいか、施策のねらい)

市民、農業者	農業体験をする。 地元農産物活用、購入をする。 イベントへの参画をする。
--------	--

基本事業の目的をあらわす指標の動き(成果指標)

基本事業の成果をあらわす指標	単位	初期値	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	後期 目標値
農産物の購入にあたって、地元農産物を積極的に購入する人の割合	%	25.7	18.3	-	24.5	25.8	28.3	↗
イベントや直売所で地元農産物を購入したことがある市民割合	%	51.4	47.5	-	54.4	55.8	57.0	↗

基本事業の達成状況(25年度)

いずれの成果指標とも前年度の数値より向上し、後期目標を達成することができた。これは「江別市「まち」と「むら」の交流推進協議会」における農産物直売所や貸し農園などの活動をはじめ、生産者が主体的に取り組む活動への支援などを通じ、消費者と生産者との交流が図られてきたことが要因の一つと考えている。また、「江別市食育推進計画」に基づく食育活動として、小学生を対象とした農業体験学習の実施や学校給食における地元農産物の積極的な活用など学齢期における取り組みをはじめ、各世代が食について考える機会を提供することにより、地産地消に関する意識の醸成が図られつつあるものと考えている。

施策事業コスト	21年度決算額	22年度決算額	23年度決算額	24年度決算額	25年度決算額
トータルコスト(千円)	11,804	9,330	11,319	12,469	12,672
事業費(千円)	1,016	1,270	1,687	1,647	2,516
人件費(千円)	10,788	8,060	9,632	10,822	10,156